

18. 企業参入を機とした和牛肥育技術の再構築

農林水産研究指導センター畜産研究部

○塩崎洋一、阿比留真吾、(病鑑) 藤田達男

1. 目的

多様な担い手を確保する中で、近年農業経営に参入する企業が増加している。そうした中、平成 19 年度に西部振興局管内で大規模和牛経営に参入した F 農場を、肥育担当広域普及指導員として支援することとなった。

本県の和牛肥育の飼養管理体系(とよのくに体系)は、前期、後期、仕上げの3種類の濃厚飼料を使用し、加えて、稲ワラ、乾草、ヘイキューブ、ジャンボリーといった粗飼料を使用するもので、F農場のような大規模かつ未経験者による飼養管理においては、管理ミスなどの発生が懸念されやすい。

そこで、1種類の濃厚飼料で導入から出荷まで対応する「とよのくにエクセレント体系」(以下エクセレント体系)を現地実証し、本県の和牛肥育技術の再構築に向けて検証を行い、和牛肥育成績の向上と肥育経営の改善に資することを目的とした。

2. 材料及び方法

(1) 実施農場：()は頭数

【玖珠町】F農場(640)、W農場(400)、【九重町】M農場(280)、【竹田市】N農場(180)

【畜産研究部】(8) ※飼養管理状況の違いを検討するために、計5カ所で実施した。

(2) 実施時期

F農場は20年4月～22年4月、W農場は20年9月～21年10月、M農場は20年4月～21年12月、N農場は20年9月～現在、の間エクセレント体系による肥育を実施した。

(3) 目標とする成績等

去勢で枝肉重量450kg以上、A4等級、BMSNo.6を目標とした。

3. 結果及び考察

各農場の経営の都合により、飼養体系が変更されたものもあるが、企業参入で重点的に支援をしたF農場については、22年6月まで以下の成績(全農大分出荷分)となった。

【去勢】出荷頭数127頭、平均枝肉重量509.9kg(うち450kg以上率90.6%)、A等級率72.4%、4・5等級率73.2%、バラ厚7.8cm、ロース芯面積55.5cm²、肝臓廃棄率15.7%

【雌】出荷頭数67頭、平均枝肉重量498.8kg(うち450kg以上率89.6%)、A等級率37.3%、4・5等級率52.2%、バラ厚7.5cm、ロース芯面積56.4cm²、肝臓廃棄率13.4%

(1) 県平均に比べて枝肉重量が50～80kg大きい。これは、現状の平均単価約1,500円では、1頭当たり、75,000～120,000円の差となる。これは、県内肥育センターの出荷頭数約1,000頭で見ると、75,000～120,000千円の経営改善効果と産出額増加が期待できる。

(2) エクセレント体系は、肥育各ステージにおいて体重やDGといった客観的に数字で把握できる項目を改善し、期待する枝肉重量を作り上げることににおいては、従来からのとよのくに体系よりも容易である。